

第2章

自転車交通安全 教育の基本

指導事例

1. 生徒への声かけ
2. 「ひやり・はっと体験」の発表
3. 危険予測学習
4. 自転車安全マップの作製

1

自転車利用時に潜む様々な危険を学ぶ

「1件の重大災害(死亡・重傷)が発生する背景に、29件の軽傷事故と300件のひやり・はっとがある。」といわれています。これは、事故になる前に、危険だと感じたり、危険な目にあったりしていることがあるということです。

自転車利用時には様々な危険が潜んでいます。それは、事故事例や日常の自転車利用時から学ぶことができます。さらに、そこに潜んでいる危険を知ること、危険に対して安全な行動をとることができるようになります。

事故には必ず原因があります。生徒が事故を起こさない、事故にあわないためには、自ら自転車利用時の様々な危険を学び、事故の原因をつくらぬ安全な行動を考え、実践する力をつけることが大切です。

2

都内における自転車事故の概要

都内の自転車事故（平成18年）

発生件数
26,059件
死者数
42人
重傷者数
195人
軽傷者数
23,913人

中学生の自転車事故（平成18年）

発生件数
962件
重傷者数
6人
軽傷者数
835人

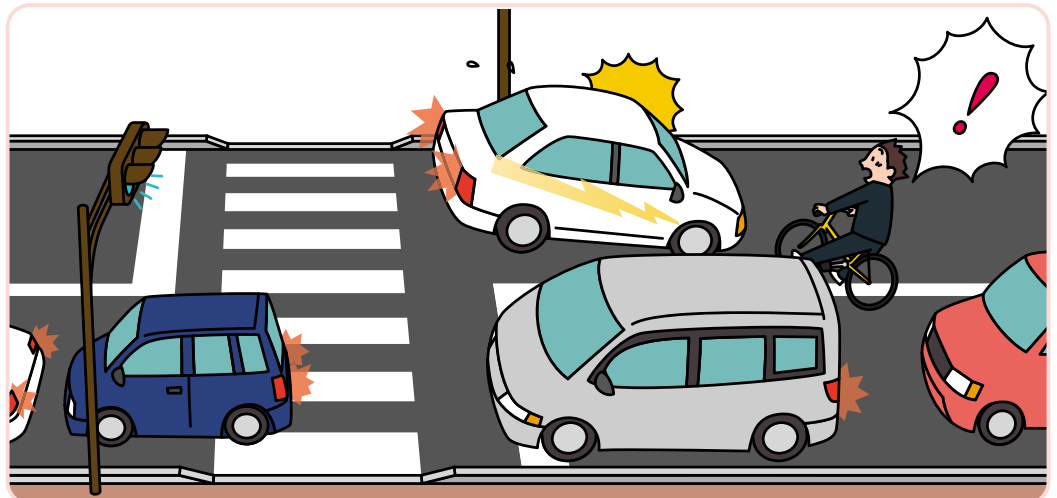
高校生の自転車事故（平成18年）

発生件数
1,703件
死者数
1人
重傷者数
8人
軽傷者数
1,447人

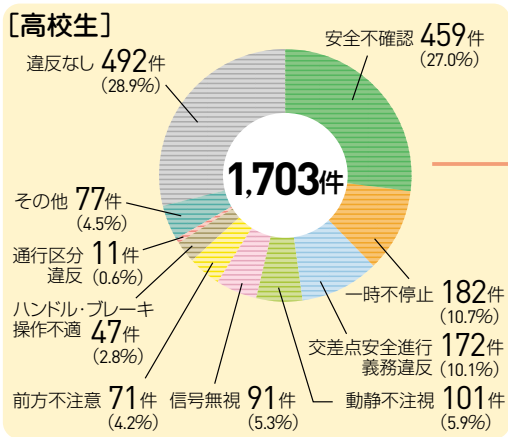
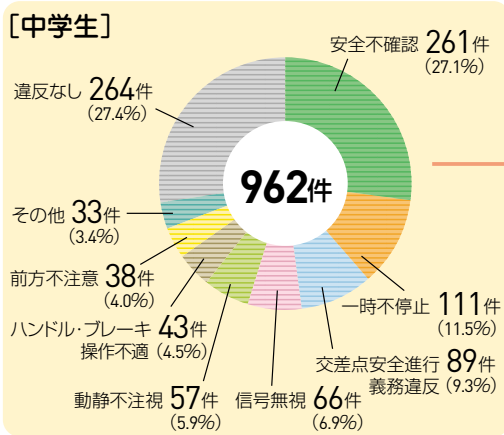
参考資料：「警視庁交通年鑑 平成18年版」

▶ 中学生の交通死亡事故事例

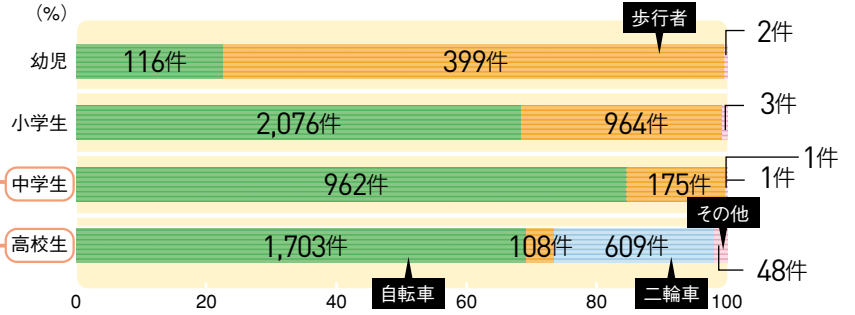
渋滞のため停止中の車両の間から安全確認をせず横断



違反別自転車事故発生状況 (平成18年)



年齢層別事故発生状況 (平成18年)



参考資料:「警視庁交通年鑑 平成18年版」

指導のポイント

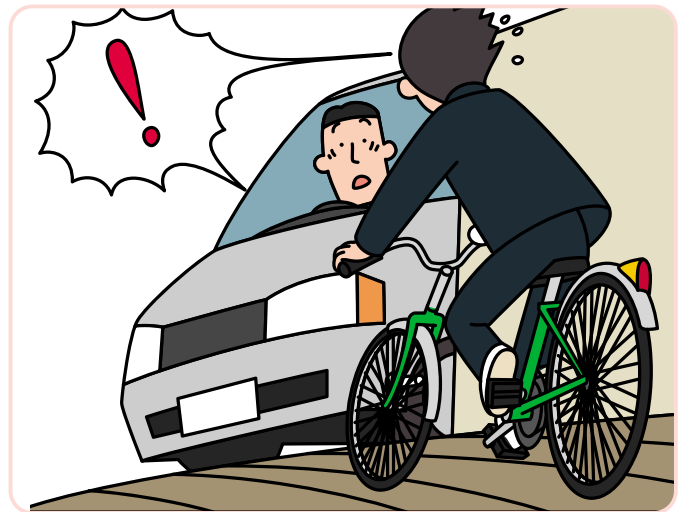
中学生・高校生の違反ワースト3

- 1 安全不確認
- 2 一時不停止
- 3 交差点安全進行義務違反

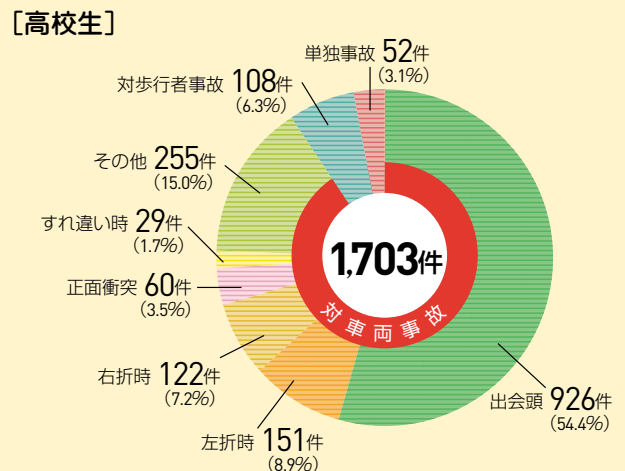
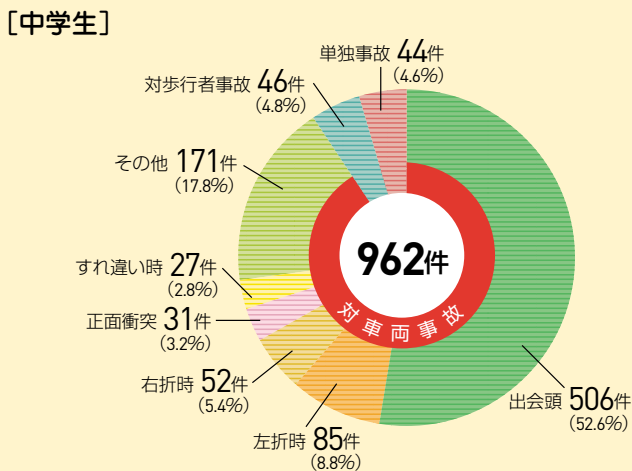
中学生・高校生の自転車事故発生状況

交差点で
出会頭
右・左折時
 がほとんどです。

指導のポイント



事故類型別自転車事故発生状況 (平成18年)



参考資料:「警視庁交通年鑑 平成18年版」

3

指導のポイント

本書は、「体験して身に付け、繰り返し指導する指導事例」を紹介しています。主に50分単位の展開となっていますが、それぞれの指導項目を短時間で指導することもできます。

- ① 朝の会や帰りの会、昼食時などを利用した毎日の指導
- ② まとまった時間における指導
- ③ 学校行事としての指導

を組み合わせ、効果的に指導が行えるよう、ここでは基本的な指導事例を紹介します。

① 毎日の指導（「指導事例1 生徒への声かけ」）

日常生活において、生徒の交通安全意識の高揚を図ります。

② まとまった時間における指導（学級活動—1単位50分）

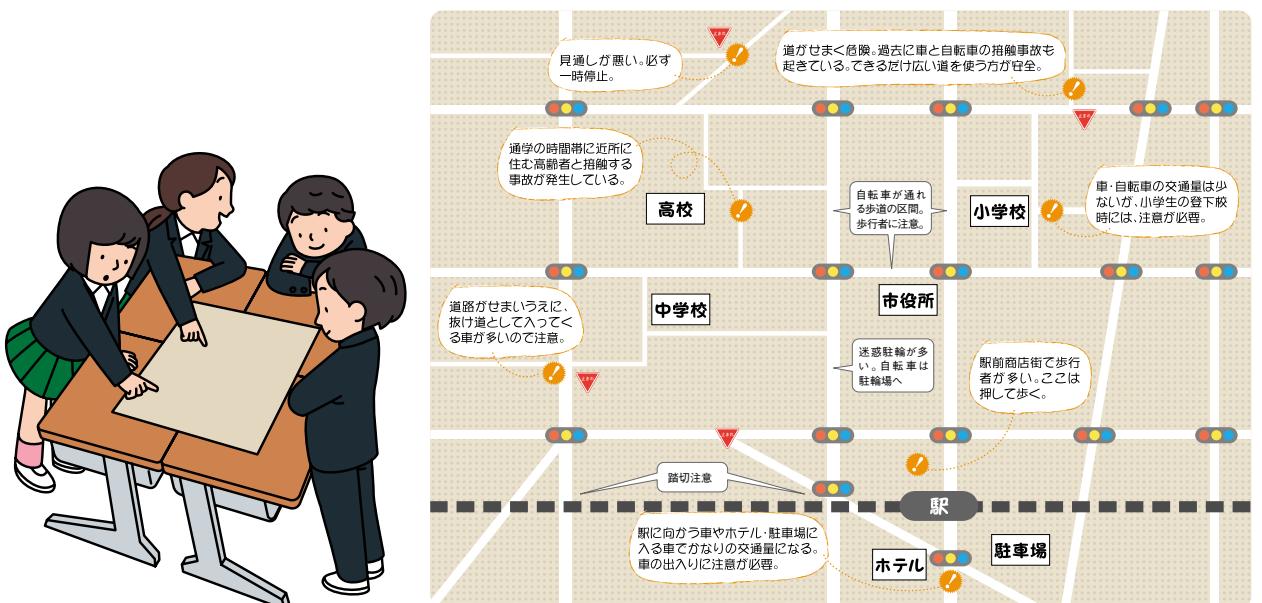
（「指導事例2 「ひやり・はっと体験」の発表」、「指導事例3 危険予測学習」）

日常における様々な危険を予測して、的確な判断の下に、安全に行動できる資質や能力を育成します。

③ 学校行事としての指導（「指導事例4 自転車安全マップの作製」）

全校又は学年を単位として、計画的、組織的に交通安全教育を実施します。

なお、第3章では様々な指導事例を紹介していますので、これらを有効的に組み合わせ、生徒が進んで安全な行動が実践できる資質や能力が備わるよう、効果的に進めることが大切です。



「自転車安全マップ」作成例 [p.22参照]

生徒への声かけ

指導のねらい >>> 生徒への声かけを繰り返し、交通安全意識を高める。

学校生活の様々な場面で、生徒に自転車の交通事故原因・事故の起こりやすい場所や交通ルールなどに関する内容を声かけし、生徒の交通安全意識を高める。

活動モデル案 >>>

●活動例

安全指導(教室・校門・自転車置き場など)

●指導の流れ

自転車の交通安全に関する声かけ(教師)

●指導計画のポイント

下校時、休日の前など生徒が自転車に乗る状況を選んで繰り返し声かけられるよう、指導時期・場所を選定する。

●事前準備

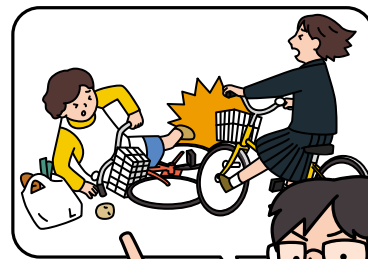
- ・自転車事故の実態を把握する。[p.08参照、警察署]
- ・交通ルール、マナーを知っておく。[指導事例①⇒p.39参照]

●連携関係機関

警察署、区市役所・町村役場交通安全担当課から交通事故や交通安全に関する資料や情報の提供を受ける。

[声かけ内容の例]

- ・車道の左端を通る
- ・歩道は歩行者優先
- ・子ども、お年寄り、体の不自由な人のそばを通るときは降りるか、徐行
- ・止まれの標識では絶対に一時停止
- ・並んで走らない
- ・暗くなったらライトをつける
- ・信号は必ず守る
- ・交差点では安全確認をする
- ・乗ったまま電話やメールはしない
- ・傘さし、携帯電話使用などで片手運転はしない
- ・二人乗りはダメ
- ・後ろからの車などに注意して方向を変える
- ・〇〇町の交差点で事故があったから気をつけなさい





2

「ひやり・はっと体験」の発表

指導のねらい >>> 交通場面に潜む様々な危険と原因を知り、その原因の排除により事故が避けられることを理解させる。

自転車運転中に、どんな場所で危険な目にあいそうになってひやりとしたり、はっとしたか。体験の交換、集約、発表により、それぞれの体験には原因があり、その原因を取り除くことにより事故は避けられることを理解させる。

活動モデル案 >>>

●活動例

学級活動(教室使用)

●指導の流れ

- ①学習の流れの説明(教師) **3分**
- ②「ひやり・はっと体験」のまとめ(生徒) **10分**
- ③班分け(生徒) **2分**
- ④ともだちの「ひやり・はっと体験」を知り、安全な行動をするための方策について話し合う。(生徒) **30分**
- ⑤まとめ(教師) **5分**

●指導計画のポイント

生徒の体験をまとめることにより、クラスの実態もつかむ。

●事前準備

- ・交通事故事例の収集
- ・発表用模造紙(必要に応じて)

●連携関係機関

警察署、区市役所・町村役場交通安全担当課から事故事例、その他資料や情報の提供を受ける。警視庁交通部交通総務課(交通安全担当)に助力をお願いするのもよいでしょう。

[具体的指導内容]

時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
3分	めあて	学習の流れの説明	・教師の体験や「ひやり・はっと体験」の事例を交えて説明する。

■「ひやり・はっと体験」の事例

- ・ブレーキが壊れ(きかなく)て止まらなかった。
- ・狭い道路から出るときに、人(車・バイク)とぶつかりそうになった。
- ・信号無視をして、車にクラクションを鳴らされた。
- ・夜、ライトをつけていない自転車とぶつかりそうになった。

など

時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
10分	「ひやり・はっと体験」のまとめ	ワークシートを配付し、生徒が体験した「ひやり・はっと体験」を記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">  事前の5分間指導でワークシートの記入をさせておくと、班ごとの意見交換、発表に多くの時間をとることができます。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことでも構わないので、自分が体験した「ひやり・はっと体験」を思い出させ、なるべく多くの意見が集まるようにする。
2分	班分け	6人～8人のグループに分ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに議長を決める。
30分	意見の交換、集約、発表	班ごとに ①各自の「ひやり・はっと体験」を紹介する。 ②同様の意見を集約する。 ③状況の一致する事例を一つ選び、その解決策を話し合わせる。 ④事故を防ぐための心構え及び解決策をまとめ、発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ともだちの体験と自分の体験を対比し事故原因を考えさせる。 ・ともだちの体験を聞いて、どんな場所が危険で、どんなことに注意すればよいと思うか、感想を記入させる。 ・傾向の多い事例や、特出すべき重要な事項を抜き出す。
5分	まとめ	教師が基本的な事項について押さえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひやり・はっと体験」の多くは、自転車側にも原因がある。 ・その原因を取り除くことにより、事故が避けられる。 ・ルールを知らないことに起因する場合は、【指導事例⑩交通法規指導⇒p.39】の学習シートを利用する。

学級活動などのできる
5分間指導

	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
5分	「ひやり・はっと体験」のまとめ	ワークシートを配付し、生徒が体験した「ひやり・はっと体験」を記入させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭へ持ち帰り、自分の体験を中心に家族の体験も聴取し、記入させるようにする。さらに、家庭の中で話し合ってもらおう。 ・期日を定めて回収、集計する。
(後日) 5分	集計結果の発表	複数の生徒に共通するもの、特徴的なもの、特に危険なものについて生徒に伝え、事故が起こる可能性の高い場面について注意を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひやり・はっと体験」の多くは、自転車側にも原因がある。 ・その原因を取り除くことにより、事故が避けられる。 ・ルールを知らないことに起因する場合は、【指導事例⑩交通法規指導⇒p.39】の学習シートで指導し、「学級だより」などを利用して家庭へも配付する。

「ひやり・はっと体験」をまとめてみよう

年 組	名前
-----	----

① 道路で危険な目にあいそうになって、ひやりとした、はっとした体験を思いっただけ書き出してみよう。				② ともだちの意見を聞いて、どんな場所が危険で、どんなことに注意すればよいと思いましたか。
どこで危険な目にあいそうになりましたか。	道路上で何をしていたときですか(歩いていた・走っていた・自転車に乗っていた)など。	どのような状況で、どうして危険だと思いましたか。	どうしたら、防げたと思いますか。	

③ 特に多い体験や危険と思う体験をひとつ選んで、どうしたら危険な目にあわないか、グループで解決策を話し合おう。

危険予測学習

指導のねらい >>> 交通場面における様々な危険を予測できる力とそれを回避する力を身に付けさせる。

ワークシートを使用し、「場面を読み取る」→「考えられる危険を予測してみる」→「何が一番危険か考える」→「危険を回避するための方法を考える」→「安全行動の実践」の順で議論し、様々な交通場面で正しい判断ができるようにする。

活動モデル案 >>>

●活動例

学級活動(教室使用)

●指導の流れ

①学習の流れの説明・交通場面の設定(教師) 8分

②危険予測学習(生徒) 15分

③班分け(生徒) 2分

④「危険の予測と回避の方法」について班での話し合い、検討(生徒) 20分

⑤まとめ(教師) 5分

●指導計画のポイント


班の中でワークシートの内容について発表・議論することが重要だが、時間がとれないときは、シートの配付で一人ひとりに身に付けさせるよう配慮する。

課題すべてを一度に行わなくてもよい。

●事前準備

ワークシートを事前に課題として与えておくと、班での検討の時間が長くとれる。

[具体的指導内容]

時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
8分	めあて	学習の流れの説明	・課題の写真をよく見て状況を判断し、どのような危険性が考えられるか、危険を回避するにはどうしたらよいか考えるように促す。
15分	危険予測学習	生徒に課題写真を見せ、ワークシートの課題に従って潜んでいる危険や、危険を回避する方法を考えさせる。  記入に時間がかかるようであれば、事前に課題としてワークシートを配付しておくとういでしょう。	・次ページの「危険予測学習の進め方」参照 ・ワークシートには、一問一答ではなく、思いついたことはすべて記入するようにさせる。
2分	班分け	6人～8人の班に分ける。	・班ごとに議長を決める。

時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
20分	「危険の予測と回避の方法」の意見の交換、集約	<p>班ごとに</p> <p>①各自が最も危険と思ったことを発表する。</p> <p>②同様の意見の集約と別の意見をまとめる。</p> <p>③最も起こりそうな危険の一つを選び、その危険を回避するための方策についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを事前に配っていた場合は、班での検討の時間を延長する。 時間がとれれば、発表の時間を設け、他の班への質問や解決策の追加等の意見を出してもらい、活気ある意見交換による意識の定着を図る。
5分	まとめ	教師が基本的な注意事項について押さえる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分からは見えていない部分にある危険を予測し、安全な行動をとる。 危険に対応できるようスピードを出さない、安全確認をするなどルールを守る。ことが、事故防止に有効であることを理解させる。

学級活動などのできる 5分間指導			
	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
5分	危険予測学習	ワークシートを配付し、課題の危険予測を通して、安全な行動を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 課題の写真をよく見て状況を判断し、どのような危険が考えられるか、危険を回避するにはどうしたらよいか考えさせ、安全な行動をとる力を身に付けさせる。
(後日) 5分	「危険予測学習」結果の発表	ワークシートを回収し、教師が生徒の考えをまとめ、基本的な注意事項について押さえる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分からは見えていない部分にある危険を予測し、安全な行動をとる。 危険に対応できるようスピードを出さない、安全確認をするなどルールを守る。ことが、事故防止に有効であることを理解させる。 普段の生徒の自転車利用状況について、危険と思われる部分があれば、併せて注意を促す。

危険予測学習の進め方

①場面を読み取る	<ul style="list-style-type: none"> 交通状況の写真を細部まで把握し、生徒の言葉で表現できるようにする。
②考えられる危険を予測してみる	<ul style="list-style-type: none"> 各写真を見ながら、どんな危険が起こる可能性があるか検討する。 ワークシートに記入した意見を班で発表し合う。その際は、どんな意見であっても否定せずに、すべてメモしておき③の材料にする。
③何が一番危険か考える	<ul style="list-style-type: none"> ②で収集された意見を検討し、その中から最も危険性が高いものを選び出す(各課題写真で同じことを行う)。
④危険を回避するための方法を考える	<ul style="list-style-type: none"> ③で最も危険とされた意見について、その回避方法を検討する。提案された方法についてはメモしておき、その中から最適と思われる方法を選び出し、なぜそれを選んだか理由も考え、班の意見としてまとめる。
⑤安全行動の実践	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに各課題写真に関する検討結果をまとめるとともに、個人のワークシート「班での検討結果」に記入する。 時間があれば、教室で各班の代表者が検討結果について発表を行い、安全な行動をより実践的に行えるような意識を共有していく。

危険予測学習 課題

- ① あなたは今、自転車で歩道を走っています。



- ② あなたは今、自転車で見通しの悪い交差点に差し掛かっています。



上の写真は、次のHPからダウンロードすることができます。
東京都青少年・治安対策本部交通安全対策のホームページ
<http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/index2.htm>

③ あなたは今、自転車で交差点に差し掛かっています。



④ あなたは今、自転車で前に止まっている車の横を通り過ぎようとしています。



上の写真は、次のHPからダウンロードすることができます。
東京都青少年・治安対策本部交通安全対策のホームページ
<http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/index2.htm>

危険予測をしよう

年 組	名前
-----	----

課題番号 【 】

写真を見て、次の要領で潜んでいる危険や、危険を回避する方法を考えてみよう。

<p>I 自転車に乗っているあなたから見えるものは何ですか？ また、見えない所には何があると思いますか？</p>	A	B	C	D
<p>II IのA～Dについて、どんな事故が起こる可能性がありますか？ また、それはなぜですか？</p>	A	B	C	D
<p>III A～Dを危険性が高い順に並べましょう。</p>	1	2	3	4
<p>IV その危険を回避するためには、どんな方法・行動をとればよいでしょうか？</p>	1	2	3	4
<p>V 班での検討結果</p>				

自転車安全マップの作製

指導のねらい >>> 危険箇所を書き出した地図を作製し、自転車運転時の事故等はどのような場所で起こるかを理解させ、交通安全に生かす。

学校周辺を中心に班ごとに街歩きを行い、危険箇所を探る（カメラが使用できれば写真を撮る）。その結果を基に危険箇所を書き出した地図を作製し、作製した地図の内容を発表、掲示することにより情報を共有させ、交通安全に生かす。

活動モデル案(1回目) >>>

●活動例

学級活動、学校行事(校外、教室使用)

●指導の流れ

①学習の流れの説明、学校周辺の地図の配付(教師)

7分

②班分け(生徒)

3分

③街歩き(生徒)

50分

●指導計画のポイント

街歩きの際は、交通安全等の注意が必要なため、PTA、地元自治会や警察署の協力を得られるように配慮する。


●事前準備

- ・学校周辺の地図の用意
- ・班分けの検討

●連携関係機関

PTA・地元自治会、警察署などに協力を要請し、生徒の安全確保を図る。また、警察署、区市役所・町村役場交通安全担当課から周辺の事故事例や情報の提供を受ける。警視庁交通部交通総務課（交通安全担当）に助力をお願いするのもよいでしょう。

[具体的指導内容]

時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
7分	めあて	学習の流れの説明【学習シート⇒p.22参照】  ひやり、はっと体験のまとめ【指導事例②⇒p.12参照】を先に行っておくと、危険箇所が把握しやすくなります。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故が起こりやすい場所(見通しの悪い交差点・交通量の多い道路・学校近辺で過去に事故のあった場所など)を説明し、生徒が危険箇所を発見する手がかりを与える。 ・参考に学校周辺の地図を配付する。
3分	班分け	6人～8人の班に分ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに街歩きの場所、区域を指定する。 ・学校近辺に住んでいる生徒、最寄りの駅を利用する生徒、自転車通勤する生徒など、通学の様子ごとの班分けをしてもよい。
50分	街歩き	<ul style="list-style-type: none"> ・道路上の危険箇所を探しながらの街歩き ・地図を作成するときのために、 ①場所や道路・交差点の名前 ②なぜそこが危険と思ったかの理由をメモしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の事故の危険性がある場所を見つける。 ・カメラが使用できるのであれば、写真を撮る。

活動モデル案(2回目) >>>>

●指導の流れ

①地図の作製(生徒) **40分**

②「自転車安全マップ」の発表(生徒代表) **15分**

③まとめ(教師) **5分**

※完成した地図は、校内にはり出し情報を共有する。


●事前準備

- ・ 模造紙
- ・ マジック、マーカーペン
- ・ 付せん紙(シールタイプ)
- ・ 写真のプリント

[具体的指導内容]

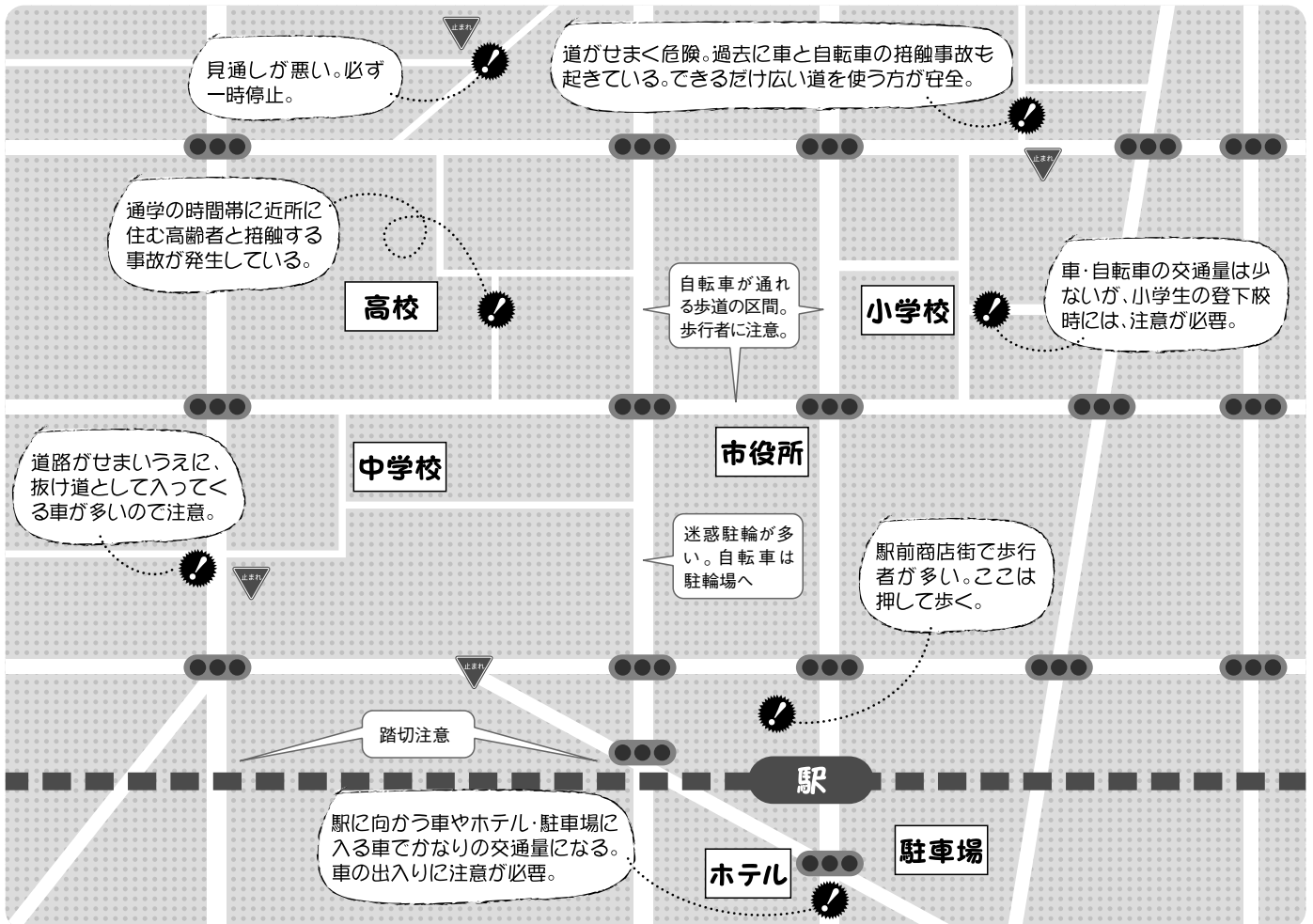
時間	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
40分	地図の作製	1回目で収集した危険箇所の情報をまとめ、手書きの地図を作製させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図上にマジック等で危険箇所を示させる。 ・ 付せん等でなぜ危険か理由を書き添えさせる。 ・ 写真をレイアウトしていく。
15分	「自転車安全マップ」の発表	班で作成した地図の発表を通して、地域の中に多くの危険があることを知らせるとともに、交通安全意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の作製に時間がかかって発表の時間がとれない場合は、教室、廊下へはり出し、感想を求める。
5分	まとめ	はり出された「自転車安全マップ」を見て、教師の体験(自動車運転者から見た自転車など)を含めた感想を述べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にある危険等を発見したことにより、日ごろから交通安全を意識して行動することを定着させ、事故防止に役立てるよう注意を促す。

学級活動などのできる
5分間指導

	指導項目	指導内容	留意点/ポイント
5分	「ひやり・はっと体験」の地図への落とし込み	生徒に ①シール(付せん紙等)を配付する。 ②印象に残る「ひやり・はっと体験」(学校周辺)を一つ書き出させる。 ③該当場所にシールをはらせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登下校時に体験した、又は気になった道路の危険箇所を提出させる。 <p> 学校近辺に住んでいる、学校の最寄り駅を利用する、自転車通学など、生徒の通学態様に合わせて数種類の地図(拡大・縮小の率を変える等)を用意してもよいでしょう。</p>
(後日) 5分	交通安全指導	①上記で作成した地図をはり出す。 ②複数の生徒が指摘した箇所、特徴的な場所や危険と思われる箇所について注意を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺の事象も交えながら、学校周辺の危険箇所の情報を共有し、交通安全に生かす。 <p> 「学級だより」などを利用して、保護者へも伝えましょう。</p>

「自転車安全マップ」を作ろう

普段利用している道路の、どこに危険が潜んでいるか、考えながら地図を作ってみよう。



地図作成のポイント

信号、標識で注意が必要な場所はありませんか。

安全に見える場所でも、危険が潜んでいるかもしれません。

危険と思われる箇所がどの場所か分かる地図ですか。

事故の事例や自分たちの体験事例が入っていますか。

危険を発見するポイント

- 交通量が多い
- 見通しが悪い
- 道路がせまい
- 道路が凹凸
- すべりやすい
- 坂道
- 道路(歩道)に通行を妨害するものがある
- 人通りが多い
- 小さい子の通学路、遊び場がある
- スーパー、病院など駐車場への車の出入りが多い
- 信号がない
- 夜間の照明がない
- ガードレールがない
- バス停留所がある
- 踏切の幅がせまい
- など